

続隠れ水俣病

／今後の焦点を聞く／

語る人

上天草南原調
養護師団代表

江頭洋祐医師
(上天草病院内科)

微量長期摂取型

—水俣病の疑いのある人が二人あるということだが。

江頭 御所浦町牧島の六十七歳の方と、電ヶ岳町の五十一歳のいすれも婦人で、現在も通院している患者さんです。水俣病症状は幾近明らかになされた診断基準をあてはめてみると、A、B、Cとも大体五〇割ずつあるわけです。先日船大の原田講師にもみてもらったんですが、視野狭窄(さく)などの典型症状がなく、不全形ではないかというところなんです。不全型というものが聞まわってない現状では、何とも言えないわけです。多発性神経炎では考えられない

面もあるし。

—二人の場合は、四十五年に発病したということだが。

江頭 顕性化したのが四十五年ということだと思います。徳臣先生の「水俣病の疫学」では、水俣病は四十年に終了した

ことになっており、それとは矛盾するんですが、ネズミの実験でも摂取量を少なくすると、発病がおそくなるということがわ

かっていますし、天草では有機水銀の汚染があったとしても、水俣と違って、微量ずつ長期にわたって摂取されたというふうに

考えれば、遅発型もありうるんじゃないかと思うんです。

—遅発型としても、四十五年というのはかなりおそい感じ

だが。

江頭 これは推論ですけど、軽い水俣病にかかっている人が、年をとってほかの病気を発病したりして、からだが弱って

きて症状が出るというふうに考えることもできるんじゃないで

すか。とにかく、まだ検査の段

階なんです。

—容疑者、50人位か

—カルテ調査はどのくらい進んでいるのか。



嵐口診療所の井上医師と打ち合わせる江頭医師

<5>

遅発性、必ずいる… 我々の手で診断基準を

以降の入院、外科の各部のカルテの中から事務職員に神経症状のあるケースをまず選んでもらったんです。三百枚ぐらいある

んじゃないでしょうか。
—医師は十人ということだが、他の医師は…。

江頭 いま天草は患者がふえる時期でしてね。多忙にかまけてというわけでもないんです

が、その後連絡をとってないんです。ただ開業医の先生たちはカルテは治療が主で、詳しい

症状まで記入しておられないこともあって、結局うちと嵐口診療所(御所浦町)が主でし

ょう(インタビュの途中で、嵐口診療所に電話して井上富彦医師と打ち合わせ)。井上先生

のところは、一応おやりになったけど、該当者はないということ

です。典型例を二応見られたらしいけど……ここはむしろあ

るとしたら、やっぱり不全型でしょうからねえ。

—カルテのリストアップ後はどうするか。

江頭 水銀量調査の個人カードを対象して、水銀量の多い人、まあ三〇PPM以上でし

ようけど、そういう人は各地区の医師に戸別訪問してもらっ

て、現在の症状を調べます。この夏船大神経科の医局から別の調査で天草へくることになって

るので、手伝ってもらおうつもりです。それに県が一斉検査をや

るようだから、われわれはそれに全面的に協力する形をとって

んですが、これを今私がチャックしています。最終的には、疑

わしい者は五十人ぐらいになる

みたいと思つてます。

—高まる地元に関心

—地先の反響は。

江頭 関心は高いですよ。け

さも、ひょっとしたら水俣病じ

やないか、よくみてほしいとい

う患者さんがありました。魚が

売れない、観光客がへるという

ようなことよりも、自分の健康

に対する関心の方が強くなった

—実はあたりまえのことなん

ですけどね。町長もネコの狂死

や海岸に打ち上げられた魚の死

がいを見ておられるので、私た

ちにもよく調べてくれといわれ

ます。

—天草から患者は出ると思

うか。